

すぎなみコミュニティカレッジ

講座：『もっと知りたい身近な図書館』

Vol.3 「図書館とボランティア」

2003年3月13日(木) 10:00~12:00 於：杉並区立中央図書館

書館

1. 講演 押樋良樹氏

【押樋氏略歴】

図書館コミュニケーションデザイナー。1945年生まれ、武蔵野美術大学造形学部卒。児童書専門店「童話屋」の企画・設計をきっかけに図書館との関わりが始まり、図書館職員研修会の講師やパネラーとして活躍。浦安市図書館のツールデザインなども手がけ、現在「市川図書館友の会」会員。

【市川図書館友の会の活動拠点である市川市中央図書館の概略】

- ・人口45万7千人(20万3千世帯)
- ・昭和30年代に設置された市立図書館と4地区館の状況が長く続く。
6年間の準備期間を経て、1994年(H6)11月に中央館が開館。
- ・映像センター、中央こども館、教育センター、東山魁夷アートギャラリーとの複合施設・生涯学習センター。
- ・図書館面積：6,600㎡
- ・蔵書：52万冊(100万冊収容可能)
- ・平成13年度貸出点数177万2,083点 1日平均6,421点、土曜日曜1万点超(杉並区立中央図書館は約3,000)、利用者数43万6,466人

講演：図書館とボランティア

図書館は「ひと」で決まる！

図書館の価値はそこで働く図書館員で決まる、と考えている。そんな観点で、図書館応援団の立場から図書館スタッフのイメージ向上のための職員研修を行っている。

「市川図書館友の会」の活動内容

(1) 市川図書館友の会 (FIL: Friend of ICHIKAWA LIBRARY) の現状

- ・発足：1994年(H6)9月
- ・会員数：個人会員160名、賛助会員5名(平成14年10月末現在)
賛助会員 = 日常的に活動をすることはできないが、会の目的に賛同して資金援助をする個人・団体・企業など。
- ・目的：「市川図書館でのボランティア活動を通じて図書館を応援し、人と人とのふれあいを楽しむこと」
- ・特典：なし(が誇りです)
- ・年会費：個人会員1,000円、賛助会員5,000円

(通信費と備品代と若干の貯蓄へ)

- ・資格：資格なし（申込書に年齢項目無し）、出来ることで図書館を応援したい意思があること。図書館が好きであること。
- ・役員：会長1名（任期は1期2年、2期まで）、副会長2名、会計2名、幹事2名。
- ・組織：作業活動内容別に委員会を組織構成。各委員会と役員における運営会を月1回開催。議事録は希望者全員に会長からネット配信。

(2) 全国にある「友の会」との違い

図書館設置を推進する会、読み聞かせの会、読書会、点訳の会...などと違う。F I Lは図書館主導の友の会ではない（図書館主導の友の会は各地にあるが...）

(3) 活動の留意点

- ・会員一人ひとりの自主都合による参加であること。
- ・利用者のプライバシーに関わる作業は行わない。（カウンター業務は行わない）
- ・活動による職員、臨時職員の削減に繋がらないこと。

(4) 主な活動内容（複数の活動も可）

- ・美化委員会：返却本の排架・書架整理（多くの会員が参加）・・・配架とせず
 - ・レファサポート委員会：閉架書庫での本探し
 - ・インフォメーション委員会：新入会員や見学者への館内案内
 - ・広報委員会：会報「F I L通信」の編集発行（年4回）
- 数字でみる活動状況（延べ人数）

2002年10月

2002年11月

2002年12月

美化委員会 182 154 135

レファサポート委員会 45 42 35

2003年2月の会員応募者数は約300人

(5) 共催の最近事例

リサイクルブック市：2002年11月2日開催（9回目）

- ・参加市民 = 1,385名 ・ 1万9千冊を用意、内1万7千冊提供
- ・友の会手伝い = 延べ199名
- ・初めて募金活動を行い、85,037円集まる。今月（2003年3月）図書館希望のツールを8脚を購入して寄附。

(6) 会と図書館の基本スタンス

- ・図書館はボランティア活動の機会を提供。
- ・会員は自分の許す時間・力・能力を提供。
- ・図書館側は「手伝ってもらって助かった」の心と、会員は「手伝って楽し

かった」の感動の心、この双方の理解と尊重のバランスがポイント。

今までを振り返って...継続のポイント

- ・市川市は元々読書会が盛んな土地柄である。
- ・“モノを言う”会ではない。業績や数でモノを言うのはいけない。
- ・ボランティアの作業内容を明確にしたことが成功のカギのひとつ。
- ・「自主運営」が会の基本理念。会員一人ひとりが“自由意思（自主的）”で参加。
- ・図書館の「応援団」という立場（暗黙の了解）
- ・個人的な趣味を持ち込まない。
- ・図書館はボランティアが活躍する場が多い。
- ・館の都合では活動しない。しかし、継続的に行うと組織化する弊害がある。“Not官僚主義”を貫く意志が大切である。
- ・図書館員側に理解がある。中央館が開館してから館長は現在5代目であるが、どなたも良き理解者である。前記のバランスが保たれていることの表れ。（異動による説明理解が不必要、相互の理解とコミュニケーションが良い）
- ・図書館の応援団であることの認識を常に行わないと...お楽しみサークル化してくる。“どんなボランティアでも良い”という方の参画と“図書館のため”を意識した方の違いが若干の摩擦を...
- ・役員任期を規定したことにより、マンネリ化、ワンマン化を防止。

これからの希望的あり方・存在意義（押樋氏案）

- ・図書館運営財政のひっ迫は更に...資料費、職員数、研修費...厳しい環境へ。しかし、利用率は増大傾向にある。
- ・要求されるサービスレベルも高度化している。さらなる司書の専門性が問われる時代になってゆくだろう。

1．永続的、より強力な支援体制作り。

2．支援基金の創出

賛助会員の獲得

図書館グッズの販売（行っている会有り）

基金構築による具体的支援

例：友の会寄贈本のコーナー、図書館員研修費用の提供...

3．共催イベント事業の推進

図書館の鮮度向上...いつも新鮮さを感じさせる工夫を！

活動の理解促進...市への働きかけ（予算獲得）も視野に入れて。

<資料 - 7 > 会の活動に関するマスコミの報道資料より

『リサイクルブック市での寄付金募集許可が発端』

平成6年の開館以来、市民団体などがメディアパーク市川内のグリーンスタジ

オや研修室を使用する場合、入場料、カンパ・募金類の現金を同施設内で徴収することは一切禁止されていたが、施設を管理運営する同市映像文化センターは、「数か月前から部内で、入場料の許可は難しいかもしれないが、寄付やカンパは本当にダメなのかどうか検討していたところ、運営・管理規定に入場料徴収と募金・カンパ類を集めてはいけないとの法律的な根拠は存在しなかった」と今後、募金・カンパ活動については容認の方向を示唆している。発端となったのは、恒例の市立中央図書館と市川図書館友の会共催のリサイクルブック市で「友の会のこれまでの活動とそれに伴う寄付金募集は利益を目的としたものではないので、特例のつもりで許可した」（映像文化センター）こと。

友の会は「現在の人的なボランティアに加え、以前から懸案事項であった図書館に物的な支援を行いたいとの要望で、募金活動を企画した。募金はすべて、図書館から要望のある備品をその都度購入し、提供していく」と慣例打破の一石を投じた。センターは今後、「ほかのグループや団体の場合も、入場料徴収の許可は無理として、カンパや募金については団体の確認やルールづくりなど、さらに詳しく検討し、早く結論を出したい」との方向を示している。（『市川よみうり』の記事より...最終更新日：2002年10月18日）

2. 質疑応答から

Q：図書館と地域住民の交流をどのようにお考えですか？

A：図書館は存在するものではなく、そこで働くスタッフと地域が協働で創ってゆくものです。また、だから、図書館の数だけ図書館の個性（内容）があってよいはずであると考えます。

Q：会の発足のきっかけはどのようなものですか？

A：私たちは、いわば、“図書館のヘビーユーザー”的な存在です。図書館が好きで、そこにいる時間を増やしたい、加えて、図書館を居心地の良い場所にしたいと思い、それなら積極的に応援しようと考えたのが、会設立の動機です。

具体的には、1994年11月、メディアパーク市川に中央図書館が誕生したのをきっかけに、図書館側からも仕事の一部を解放して頂き、ボランティア活動を通じて市民レベルで図書館を応援しようという友の会として誕生しました。各地に図書館友の会はありますが、図書館とフィフティ・フィフティの関係という、このような形は日本では初めてのものだと言っています。図書館の仕事に関わることで、図書館を身近にし、楽しみながら活動している。現在は9年目を迎えさらに皆様に親しまれる会を目指しています。

Q：司書資格の重要性についてお考えをお聞かせください。

A：杉並図書館の職員は、司書として勤めても人事異動で、他の部局に行く事

があり、司書でない人が図書館職員となる事があると聞いています。市川図書館の場合は、40人中30人が司書で、他の部局との交流も盛んです。また、浦安図書館の場合ですが、50人中49人が司書の資格を持ち、図書館の専門職として勤務しています。近々、全員が司書資格者となると聞いています。専門職ですから、人事異動は図書館内の異動となります。

ところで、司書の方が必ずしも良い図書館員であるとは限りません。司書でない方で素晴らしい図書館員の方々は私は、数限りなく知っております。司書イコール図書館員ではありません。「司書たる前に図書館員たれ！」と言いたい。図書館員として果すべき役割りは幾らでもあると感じています。そして、図書館に職を得たら、図書館に席がある限り本の専門家として努力して頂きたいと言うのが私のお願いです。

なお、図書館のPRパンフには、司書の存在を明確に書いて欲しいと思います。「司書は、図書館で何が出来るのか」と「司書の人数」を書いて欲しい。また私たち友の会では、図書館の周りに植栽・花を植える活動もしていますが、図書館の周りを綺麗な花々で飾る管理職員の方々も素晴らしい図書館員ではないでしょうか。

< 杉並図書館より >

図書館員 Aさん

常勤図書館職員の司書比率は40%前後で推移していきまして、23区ではトップ級の水準です。学生の頃司書の資格を得た人、図書館勤務を続けながら資格を取った人など様々です。杉並区としては、図書館の司書としての採用はないということです。中央図書館の司書比率は、仕事の性質上、他の地域図書館と比べ若干高いのですが、他の地域図書館は出来るだけ平均化するように人事上配慮しています。南荻窪図書館のように、昔から、司書比率を60%台維持しているところもあります。12名中7名が司書です。また、4月から、中央図書館では、レファレンスの専門である調査相談係を4、5名配置しました事も申し添えます。

図書館員 Bさん

司書の配置について

司書の資格をとるために鶴見の大学に、夏期に3か月間通い、資格を取りましたが、ではカウンターに座って、直ぐにお客様のお役に立てるかというところではありません。日常業務で、日々、レファレンスの機会を得て、質問にお答えしているうちに段々と、正確に、早く、資料提供できる技術が向上してくることを体感しています。司書資格を持っていた方が、基礎を習っている分早く技術の向上ができます。そういう意味で、司書が数多く配置される事が望まれます。

図書館員 Cさん

毎年、図書館員の異動の季節になると、いつも考える事があります。司書の方が、転入されるのを願っていると皆さんは考えているのでしょうか、全然違う

のです。そうではなくて「どうか、真面目で、健康で、常識があって、お金を頂いて働くという事はどういうことなのか分かっている、バランス感覚が取れている方」を望んでいるのです。ですから、上司には“普通の人”をリクルートしてくださいと頼んでいます。司書の資格がなくても幾らでも仕事を通して勉強ができるのです。私たちは、カウンターに座った時からもう、図書館員ですよと考えている事を強く言いたい。図書館員として仕事をするには、少しでも専門の知識があればいいのです。一生懸命勉強する気持ちがあれば、機会を得て資格を取ればいいと、若い人、ボランティアの人、定年後の人、団塊の世代に勧めています。

皆さんにお願いがあります、どうか、図書館のカウンターにいる方に声をかけて下さい。お答えが満足いただけない場合に、私たちは、そばにいる限りフォローをする覚悟でいつも働いています、満足のいかない答えしか出来ない人でも、原因はよく承知しているケースが多いのです。

Q：雑誌の朗読本（『新潮45』）を作るためにテープ朗読をしているボランティアですが、以前は、この雑誌の何処を朗読するのか、一切お任せの館員の方がいました。今はさすがに、このような方はいませんので、館員の方と打ち合わせをして、何処の記事を取り上げるのかを決めています。ボランティアと図書館員との係わり方に付いて、私たちの立場とはなんだろうと揺れる事がありますので、お答えください。

A：大変厳しい意見ですが、朗読のプロであっても、図書のプロ、即ち、図書館の基軸となる蔵書構成のプロではありませんので、図書館から指示がない場合、お断りするほうが良いと考えます。そして、お困りになる方、周囲の方が、声を出して頂く、このような進め方にすべきと考えています。

私たちボランティアは、行政の仕事の肩代わりを行うものではありません。ボランティアとしてやって良いこと、悪い事がある、この点をしっかりと見極める必要があります。違う事例ですが、個人情報に係わるようなカウンター業務は避けたほうが賢明であると思います。長くボランティアをしていると、新人図書館員よりの図書館内部の業務に精通するようになる、書籍の検索も早くなりますが、あくまでも図書館のボランティアとして慎ましく立ち振る舞いたいと考えます。

< 杉並図書館より >

職員・管理職ともども、ボランティアさんとよく話し合うことが肝要ですね。おっしゃったことが起こらないようにしたいと考えます。

Q：市川図書館友の会は市内の図書館を全部カバーしているのですか？

A：中央図書館に集中してお手伝いをしています。他の地域館は、学校図書館程度ですから、友の会のようなボランティアは必要ありません。年間貸出点数177万点（1日平均6,421点）、この大半が中央図書館に集中しますので、困っ

ているところをボランティアでサポートします。

なお、レファレンス・カウンターの後ろには4、5人しか座れないので、レファレンス担当から依頼があった本を閉架書庫から該当本を探す、これは友の会・レファレンスサポート委員会の活動です。美化委員会の活動は、返却本の排架と書架の整理を担当する、私たちのメインの活動です。

月に150人程度の仲間が係わります。秋のリサイクル本活動では、市民にリサイクル本として差し上げる本を整理・整頓する為に、一日中、一階、地下等の書庫に戦力を集中します。特に書庫では、本の整理整頓でダンボール箱を一日中、入れ替えする作業が続きます。館側と打ち合わせをしながら、人数のバランスを考えて、活動が平準化するように工夫しています。「図書館が命」という方もいますので、その方が、活動の標準にならぬ様に気を付けています。

Q：友の会組織と図書館側との間にコーディネーター的な存在の方はいるのですか？

A：友の会側は、会長と副会長が表の交渉窓口を果します、こちらからの申し出により各業務の担当窓口を設けて頂きました。会長・副会長の下に、運営委員会が設けてあり、各委員長と役員が月一回、状況報告と課題を見つけるために話し合います。図書館側から特別要請がある場合、各委員と解決策を考えていきますが、私たちの活動は、あくまでも図書館内のうちうちの事柄を話し合いで解決していくのですから、館長と個別に齟齬のなきように話し合いでやっています。

Q：現在の活動の上に、更に加えてもよいと考えている活動はありますか？

A：児童室の活用と点訳活動があるのですが、思うほど利用者がいないこと、私たちの先輩の活動があることを考えて、優先事項とは考えていません。やはり、美化委員会の活動が一番評価が高いので、これに集中します。怪我などで困っている方への本の宅配がありますが、事故の際の保険をどうしようとか、行政の代行仕事になるのでは？ とのこと、踏み込めずにいます。友の会以外のボランティア活動グループとの調整ですが、それぞれ思いを込めて活動しているわけですから、こちらから、統合しようとか、一緒にすべきだというようなことはなく、お互いにフリーに活動しています。この面は、図書館側にお任せと言うことです。なお、ロッカーは別々に図書館から貸して頂き、印刷機は、各グループと仲良く、利用し合っています。

Q：友の会の運営姿勢に関して、「ものを言う友の会でなく、背中を見せる、これが我慢のしどころだ！」ということとやらでこられていると伺いましたが、運営上の懸案はありますか？

A：「ものを言う」会ではありませんが、うちうちで、外に出さないように、クローズされた中で、周囲で聞いた話は、お伝えしています。また、会員の中には、ずかずかと図書館に入っていく、「（図書館職員や管理職）をオレ

は知っている、なんだ、これは！」という人も出てきます。職員が入る扉は、外から内に入るのに便利ですが、職員用ですので、遠慮して通らない、我慢して使わないということも大切な我慢です。職員と一線をきちんとして引くことによってこちらの存在感をアピールするということだと考えています。

Q：単館であった方がよかったですか？

A：逆に、複合館であることによる利便性があります。他の施設に来られた方が、ついでに図書館に寄られたり、その反対もある。図書館として、きちんと機能していれば問題はないと考えています。